

令和4年度「第1回ケアラーズ交流会」開催報告

【日時】令和4年5月24日（火）13:00～15:00

【場所】集い場 木かげ（住吉商店街）

【参加】ケアラー3名、ケアラーサポーター2名、

ケアマネジャー1名

長崎市西浦上・三川地域包括支援センター 山本瑞穂氏

生命医科学域保健学系 井口教授

ダイバーシティ推進センター内野介護コンシェルジュ



ケアラーズ交流会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策をしながら、住吉商店街地区で地域の人が気軽に集える場（地域の縁側）作りに取り組んでおられる「集い場 木かげ」にて開催しました。

本日は西浦上・三川地域包括支援センターの認知症地域支援推進員である山本氏に包括の役割や認知症について、介護している家族について等お話しいただきました。その後、認知症のご家族を介護されていらっしゃる方も含めた3名のケアラーさんが、最近の当事者の話や困りごと、介護者自身の状況について等、自由に話されました。今回は、参加者各々が自身の話をする時間が多くありました。介護には身体的な負担や要介護者と介護者間の関わり、介護費用の問題や家族関係の悩み等精神的な負担も多く、介護の課題について改めて考える機会となりました。

配偶者が施設入所し1年経過されたケアラーの言葉で、「私は配偶者の認知症が治り自宅で生活できることを信じて生活している。いくつになっても希望をもつことは大事」「みんな希望をもって生活しよう」との言葉がとても印象的でした。また、介護経験者で現在ケアラーサポーターとして活動されている方から、「介護しているときは精一杯で悩みが多く、日々大変だった。介護を経験したからこそ、介護している人の力になりたい、支えになりたいと考えるようになった」等の声が聞かれ、ケアラー支援の必要性について実感しました。

本センターは、介護者が孤立することなく、介護者もともに社会参加できるよう、また介護を1人で抱え込まないように、介護者が持つお互いの悩みや解決策の情報交換の場を作り、地域のケアラーの孤立を防ぎ精神的な支えとなるコミュニティの形成ができるよう、地域のみなさまのお力をお借りしながら取り組んでまいります。

